

今月号は、水疱症・膿疱症の特集である。どうして水疱症と膿疱症が一つにまとめられているのか。こんなことに疑問をもった先生はいないだろうか。北海道大学の清水 宏先生が書かれた「あたらしい皮膚科学」第3版や、本誌の編集委員である大塚藤男先生の「皮膚科学」第10版でも水疱症・膿疱症は一つの章となっている。水疱症は、表皮あるいは真皮表皮境界部に生じた亀裂に漿液が貯留してできるものである。亀裂ができる原因から、表皮や基底膜、真皮の細胞間接着に関係する蛋白に対する抗体が産生される自己免疫疾患と、蛋白の欠損あるいは機能不全を伴う先天性遺伝性疾患に分けられている。一方で、膿疱症は無菌性で、好中球やときに好酸球が浸潤して生じる。その発症メカニズムは、まだ十分に分かっていないところも多い。発症機序が明らかに異なる二つの疾患を一つにまとめているのは、水疱、膿疱という疱の字、すなわち皮膚に何かが貯留している臨床的、病理組織学的な所見である。

かつては、皮膚科学の主体は形態学であったが、医学の進歩にしたがって、病因が明らかになることにより、疾患の概念が変化し、分類も変わりつつある。このため、現時点では、形態学的な分類と病因による分類が混在しているのが皮膚科学の現状である。例えば、膿疱症に分類されている掌蹠膿疱症は、乾癬に分類してもらったほうが病因や治療の観点からはわかりやすい気がする。しかし、そんなことを考えながら汗疱をみると、水疱型の足白癬や掌蹠膿疱症との鑑別が気になり、水疱と膿疱の対比は臨床的に重要である。あれこれ考えると、理想的な分類法はなく、慣れ親しんだ現状の分類は決して悪くはないという結論に達した。教科書の分類を暗記するよりも、疾患を臨床像と病因で有機的に分類した2次元、3次元のチャートを頭のなかに作ることが、皮膚科専門医に求められているように思う。

診断がつかなければステロイドを処方し、悪くなれば抗真菌薬を外用する。感染のリスクが心配であれば抗菌薬も併用しておけば、皮膚科は何とかなるといわれたことがある。実際に、酒皰様皮膚炎患者の病歴を詳細に聞いてみると、適当に試行錯誤していると思えないこともある。臨床像から病理学的所見を類推し診断をつけ、さらに疾患の発症メカニズムを考慮して、治療法を選択する。その際に、自分なりの適切なチャートができていれば、より明快に診断と治療が行える。そういう皮膚科医に私はなりたい。

(林 伸和)

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第60巻 第5号 5月号 2018年5月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。